

2023/夏号

Vol. 7

とらねこしろう

# 虎猫思想

のんびり生きるにや。



おもい  
知りたいのは、「思想」でした。

2022年2月に創刊した「虎猫思想」。発信し始めて1年ほどが経過した今、改めてわたしたちは何を伝えたいのかを考えてみました。

誰もが発信しやすくなった今日、店舗や観光スポットに関する情報は、たくさんあります。ただ、わたしたちが知りたいのは、スペックやデータで示される情報ではなく、そのひとたちの「思想」でした。「思想」は、一人ひとりの生き方や暮らしぶりの根っこに存在するもの。「なぜこうして生きるのか」「なぜその道をえらぶのか」という問いに対するそれぞれの答えでもあり、自分らしさに辿り着こうと考え、悩み、戸惑いながら生きていくひとたちの息遣いともいえるでしょう。

華々しい活躍や目を見張る成功談よりも、そのひとりの信念や確たる何かを秘めた生き方に心が動きます。これが正しいとか、こうあるべきというような類のものでもありません。自分らしく歩むひとたちの話にしっかりと耳を傾け、大切にしていることをそっと掬いとる。そうやって紡いだ物語が、受け取ったひとの心のどこかに残るなら素敵だなと思いながら、発信し続けます。

これまでも、これからも。それが「虎猫思想」です。



たべるはしあわせ。  
暑い夏こそしっかりおいしく。



なめらかな  
食感



寄せ豆腐 220円

一年通じ  
定番




木綿豆腐 220円

分厚くて  
ジューシー



油揚げ 150円

 たまちゃん豆腐  
平瀬豆腐店

宍粟市千種町岩野辺1357

☎ 0790-76-2439



## 暮らしをつくる。

### 「サササ」のふたりが宍粟を選んだ理由

2021年10月、喫茶店をオープンさせた「サササ」は、すぐに関西のオシャレ女子必読の「SAVVY」や上質なライフスタイルマガジン「nice things.」に取り上げられる場になった。手間を惜しまずつくられる「草花木葉膳茶」はオンラインでも購入可能だが、月に数回だけの喫茶のオープン日には大阪や神戸から足を運ぶファンもいるという。だが「サササ」は、いわゆる喫茶店ではない。いうなれば、生き方や暮らし方を考えるきっかけになる場所だ。そんな「サササ」のことを虎猫思想で紹介したいとずいぶん前から考えていた。だが、どう伝えようかという編集方針がずっと見つけれずにいた。

とにもかくにも「サササ」を運営する山口洋介・亜希夫妻の人間としての魅力を伝えよう。そう思い取材に伺ったのはゴールデンウィーク明け。すでにご存知の方も多だろうが、「サササ」の店舗は閉園した旧幼稚園舎を2年かけて仲間たちと改修したものだ。園舎の一番奥に位置する喫茶室に続いて、身体を使ったワークショップなどが行える部屋の改修もいったん落ち着く頃だという。虎猫編集室のある千種町から「サササ」のある一宮町繁盛地区までは片道おおよそ40km。川沿いの道をたどるようにして旧繁盛幼稚園へと向かった。

そつと根を下ろし やがて根を張る 草木のように



山口夫妻が出会ったのは、大阪のアパレル会社で働いていた頃。華やかな業界に身を置きながらも、ともに「流行の最先端」イケているというファッション業界の空気が、ちよつと「苦手」だったという。何よりも毎日が目まぐるしく忙しいことに疲れていた。その後、洋介さんは会社を辞め園芸業界へ転職。少し時間を置いてパターンナーとして独立した亜希さんは、それまで興味があった漢方や薬膳を学ぶようになった。互いに草花や木々に触れ、それらの持つ効用を知る中で、一見地味に見えても確かなものに惹かれるように。週末のイベントで植物や薬膳茶を販売するようになり、大阪・阿倍野に薬膳茶と観葉植物、日用品を扱うお店を開いた。それが

「サササ」の始まりだった。大阪でのお店もオープンは週2日。それ以外の時間はパターンナーとして仕事を請け負っていた。仕事は順調で、お店も少しずつ認知されていった。だが、「その頃、亜希はよく不安だとこぼしていました。具体的な不安材料はないんですが、僕も漠然と不安でしたね」と洋介さんが笑いながらいう。それを聞いた亜希さんは「実業に来てからそんな感覚がないから忘れてた!」と目を見開いたあと「あの頃は、ふとした時にこの先このままでいいのかと考えていたような気がします」と懐かしむように振り返った。

暮らし方に疑問を持つようになった。そうこうするうちに、お茶の材料や植物も自分たちの手で一から全部つくられたらと思うようになったふたりは、草花や木々を育てるのに適した田畑を探し始めた。いくつかの地域を巡る中で、実粟市で暮らす人に出会い、自然の中で生きる暮らしに強く惹かれるようになった。縁あって旧繁盛幼稚園を利活用することが決まり、実粟市へ拠点を移したのは4年前のことだ。「幼稚園を改修したり地域の方に教えていただいてお米や野菜をつくったりしているうちにいつの間にか不安じゃなくなりました」と亜希さんは屈託ない笑顔を見せる。(それを洋介さんが嬉しそうに見つめているのがとても素敵なのだが、きつと「そ



ほの暗さが心地よい、休園日の喫茶室。完成度の高い空間の建具や装飾に至るまで、一つひとつ自分たちで仕上げたというから驚く



んなことはない」と照れて言い張るのでわざわざ書いておく)

現在も園舎の改修は続いている。床の紋様から窓からの光の入り具合まで、細部にわたってセンスを感じさせる空間。地元の木材を使って幼稚園の面影は残しながら、どこか懐かしくて温かい空間に仕上げるのは、ここを大切にしている人たちへの配慮でもある。昨年からは、身体のことについて一緒に学ぶ講座も開講。地道に着実に「サササ」の世界観が広がっている。

「今でも、大阪にお店があったのに、どうしてわざわざ田舎に移したの?と聞かれること多いです」とふたりは笑うが、これまでの話を知れば明白だ。この地では何気ない日常だが「自分たち

の食べるものを自分たちでつくる」という地に足のついた営みには「自分の手で自分たちの暮らしをつくっている」という手応えがある。人の心を安定させるのは、生きているという確かな実感なのだろう。

もちろんそうやって暮らしただけで、必ずしも不安がなくなるわけではない。ふたりの一つひとつ手を抜かず丁寧な地域と関わる姿勢は、いつも穏やかで敬意に満ちている。そこにあるのは地域の良さを理解し大切にしようという姿勢。だからこそ、自分たちの理想とする価値観も受け入れてもらえる。それが安心につながるのだ。それでいて優等生すぎず、ほどよく毒舌と茶目つ気も持ち合わせる。その個性が「サササ」の独自性をつくりあげている。たぐさんの人を惹きつけるやまないなのは、ふたりのチャーミングな人間力があってこそだ。

サササ  
実粟市一宮町上野田576  
(旧繁盛幼稚園側)  
営/10:00-16:00  
営業日は日曜日を中心に月に数日です。  
問/InstagramのDMまたは  
info@sasasashiso.com  
sasasa.shiso

訪ねてみました



# 猫さんぽ

「Ce la vi」珈琲のようにほろ苦く奥深い、これぞ第二の人生。



自家焙煎珈琲 和  
出迎えてくれるのは、エスプリの効いたマスターと笑顔のマダム。



奥様の和子さんとお店の前で。和(なごみ)という店名の由来は、おふたりの名前に共通する漢字から。いやはや、ごちそうさます。

## 自家焙煎珈琲 和

〒 栄栗市山崎町金谷822-5

☎ 090-9706-6157

🕒 8:30~17:30

🗓 月曜日・第2・4火曜日

HP <https://www.nagomicoffee.jp/>

に人生の楽園！と羨ましく思う人もいるのでは？  
だが、現実には想像よりも過酷だった。いくら時間をかけてもオープン当初は失敗続き。「豆の状態はもろん気温や湿度、ちよっとしたこと命取りになる」と、定休日はほぼ焙煎機の前に陣取って終わる。納得できないものは出せないと大量の豆を捨てたこともしばしばだ。キーキも手作りするため、営業日の作業も深夜に及ぶ。「豆のピッキングで目はチラチラするし肩は凝るし、悠々自適なんてもんじゃなかった」とぼやく光岡さんの顔は明るい。どこまでも徹底的にこだわれる焙煎職人の世界が楽しくて仕方がない様子。

「教師とは180度違う世界に飛び込もうと思って」と笑う光岡さん。全く畑違いの分野に進むにあたって、中高時代の同級生たちが店舗づくりをサポートしてくれていたという。「店にもよってきてくれて。いつまでたっても心配かけよんですよ」とご本人は自虐トーク全開だが、地元の常連客が足繁く通い、元教え子や同僚が訪れるのは光岡さんを慕ってのこと。登山や散策を終えた方に近隣のスポットを紹介することも多く、奥様曰く「カウンターで若いお客さんの人生相談にのっていることもよくあるんです」。放っておけない性格は、きつと今に始まったことではないはず。職業が変わっても熱い教師魂は健在なのだ。



小窓の向こうには手入れの行き届いた焙煎機が鎮座し、造り付け棚には色とりどりのコーヒーカップが整列する。ジャズのスタンダードナンバーが流れる空間は、まさにコーヒー専門店の王道。2022年5月にオープンした「自家焙煎珈琲和(なごみ)」は、山崎町・国見の森公園近くにある。これだけのシチュエーションだ、さぞ寡黙なマスターが登場するのだろうと思いきや、カウンターの常連客と思しき人たちと、気さくにトークする姿が。この人こそ和のマスター・光岡和子さん。光岡さんの前職は中学校の美術教師だ。  
教師だったある日、突如コーヒーに魅了された光岡さん。「こんなに美味しいものだったなんて」とコーヒー店を訪ね歩くようになった。コーヒーは豆選びも重要だが、焙煎する人によって驚くほど味が変わる。姫路にお気に入りの自家焙煎店を見つけ、毎週のように豆を買いに行くようになり、ハンドドリッパーに目覚めた。職員室で同僚に「コーヒーを振る舞い、コーヒー好きの先生を集めて愛好会をつくるまでに。ついには早期退職を決め、焙煎職人に弟子入りする」という光岡さんの熱意に、最初は反対していた奥様もお店を手伝うことをしぶしぶ承諾。退職金をつぎ込んで自宅横に店舗を構えた、と聞けば、まさ

※(夕)は小原夕依さん、(咲)は春名咲耶さんが原案をつくりました。

しっぽ、ぴーぽ、ぽーん!



どんな服にも合わせやすいデザインは、シンプルだけどカワイイ!色が豊富で、好きな色を選べるのが嬉しい♪(夕)  
●森としっぽ。おしりTシャツ 各3,300円

牛ヌメ革を丁寧に面取り・コバ処理し、2本の針でしっかり縫い込んだお散歩用の首輪。ワンちゃんが強く引っ張っても大丈夫なように強度試験をクリアしています。  
●つなぐ(おさんぽ首輪) 14,850円



使うほどになじむ。



送って、飾って、つながる支援を。

ゆるい表情とぼさぼさした毛並み、ほのぼのえんぴつタッチのイラストがGOOD。風合いのある紙の質感も素敵だから、送るもよし、飾るもよし。  
●森としっぽ。ポストカード 各150円



安心安全・よく食べる!

高タンパクで低カロリーな鹿肉だから食いつきよし!手から食べさせやすいから、触れ合うきっかけにも。(咲)  
●鹿肉チップジャーキー(20g) 650円

中学生の視点!

「森としっぽ。」の活動取材して。

保護活動が続けるにはお金がかかります。そのお金をしっかり収益としてつくることは大切ですが、大変なことです。実際に、保護活動のために作品を販売する活動はすごいと思いました。(春名咲耶)  
お世話できなくなった人のことや災害時のことなども考えている活動の内容を聞いて、保護すればOKではなく、その先のことを考える大切さを知りました。すごく難しいことをされているなと思いました。(小原夕依)



そっくりそのまま。

躍動感がある水彩画。光の加減もとてもリアルで本物みたい!部屋に飾るのにちょうど良いサイズ感も◎。(夕)  
●オーダー水彩画(犬・猫)正方形S2サイズ21,000円、長方形F2サイズ19,000円

お気に入りの作品を見つけることが、ワンニャンの応援に。

「このグッズ素敵!」「もっと詳しく知りたい!」と思ったら、ぜひオンラインストアへ!制作風景やものづくりの姿勢が伝わる動画もそれぞれの作家さんごとに配信されているので、きっと「森のしっぽ。」の活動を応援したくなるはずです。



「森としっぽ。」オンラインストア

マステ、お持ちしました。



しっかりとマスキングテープを抱きかかえながら、よいしょよいしょと歩くニャンズ。木材違いで並べると愛らしさ満点。うっかりどこかにしまいがちなマステだから、この子たちが持っていてくれたら安心です。  
●マステホルダー(ねこ) 各5,500円



どちらのおしり推し?

ワンニャンのおしりってどうしてあんなにキュートなのでしょう。そんなおしり愛好家の心をくすぐるプローチは、鳥取県産のヒノキを使用。動物にも森にもやさしい気持ちに。  
●森としっぽ。おしりプローチ 各700円



甘すぎない。

ラブリーすぎるアイテムはちょっと苦手。そういう人にはぜひ、髪や手首にこの子をおひとつ。  
●森としっぽ。いぬねこへアゴム 各700円



「行き場のないワンニャンの問題って、一番身近な環境問題だと思いませんか」と話してくれたのは、森での癒しの時間や木に囲まれた空間を提案してきた株式会社ルリエの代表・松本章太さんと奥様の温子さん。長年抱いてきたワンニャンへの思いを形にしたプロジェクトが「森としっぽ。」です。「安定してサポートするためにも自立した事業でなければ」と手がけるのは、全国各地のものづくり作家さんと一緒に、ワンニャンのためのグッズやお揃いで使えるもの、メモリアルグッズやワンニャン雑貨。現在、宿泊施設やドッグランを併設した保護施設の建設を予定していて、「森としっぽ。」の収益はここのワンニャンたちの生活費や医療費、施設費に充てられます。



鳥取県を拠点としてワンニャンの健やかな暮らしを支えようと尽力するご夫婦を訪ねました。



三兄弟、揃えたくくなる。

まるいフォルムとポーズがカワイイ。細かいところまで手作業でつくられているので、一つひとつ色や柄が違います!(咲)  
●体育会系ねこ三兄弟(跳び箱ねこ 6,000円 竹馬ねこ・平均台ねこ 各6,500円)

にゃわらかガラス。



手がけているのは愛猫家の吹きガラス作家さん。さすが、猫が液体だとわかってらっしゃる。(注・液体というのは比喻です)  
●にゃんこはしおき 1,320円

#ねこのいる幸せ  
保護活動を支えるために。



このページは、ふたりが編集者として  
原稿制作と写真セレクト、レイアウト指示をしました!



\ 14歳、編集者になる。 /

# トライやるウィーク

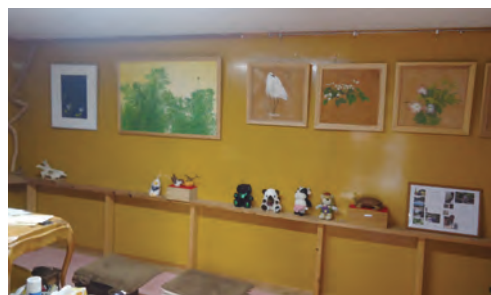
at 虎猫編集室

6月5～9日の1週間、千種中学校8年生の春名咲耶さんと小原夕依さんが虎猫編集室で就業体験してくれました。虎猫思想の取材撮影の見学から取材・制作、外部デザイナーやクライアントとの打ち合わせまで、世間的にはよくわからない編集者やライターの仕事を通して、編集というものの面白さが伝わったら嬉しいです。春名さん、小原さん、ありがとうございました。また編集室で遊びましょう!



## 今にも動き出しそうな作品 「galleryひじねこ」

山崎町にある「galleryひじねこ」は、土方研三さんの作品が飾られているところだ。子どもの頃から、絵を描くのが好きだったという土方さん。就職してからは、なかなか絵を描く時間がなかったという。退職してからは、また時間ができ、絵を描き出した。絵は毛の一本一本、木の一本一本が細かく、見ていると中から出てきそうなほどだった。絵のほかにも彫刻の作品がある。彫刻は、本物かと思うほど、器用に細かく彫られていた。今にも動き出しそうな作品には、命が宿っているように思えた。(小原夕依)



<DATA>  
galleryひじねこ

📍 宍粟市山崎町上比地691  
☎ 090-3624-3689  
🆓 無料

## 「サササ」の収穫作業とお茶を体験して。

茶膳茶

サササ

一から全部、手間ひまをかけてつくっていることがわかりました。千種にも生えている草の中にも、雑草に見えるかもしれないけれどお茶の素材になる草があるということも知ってもらえたらと思います。特別感のあるお茶なので、まだ飲んだことがない人に知ってもらいたいです。(小原夕依)



お茶の素材になる草を自分たちで栽培したり、畑の草を摘んで洗って乾燥させたりと、時間をかけてつくっていることを知りました。お茶が好きなお茶に飲んでもらって「こんなお茶があるんだ」と知ってもらいたいです。知っている人も、もっと知るともっと好きになると思います。(春名咲耶)

## 自然と触れ合える場所 「コヤスの杜庭園」

山崎町にある「コヤスの杜庭園」は、長年造園業を営んできた廣坂重幸さんが大切にしている庭園だ。中学生の頃からみんなが集まれる場所をつくりたいという夢を持ち、少しずつ庭園をつくってきたそうだ。一人でコツコツと作り上げてきた庭には、珍しい植物がたくさんあった。その中でもコヤスの木はこの地域にしか生息しない珍しい木だ。最近はそんな庭園を訪れる人が増えていると、廣坂さんは嬉しそうに話していた。たくさんの植物に囲まれると、心が落ち着くような気がした。(春名咲耶)



<DATA>  
コヤスの杜庭園

📍 宍粟市山崎町上比地612  
🆓 無料

自家焙煎珈琲

和

## 「自家焙煎珈琲 和」を訪ねて。

どんな人でも受け入れてくれそうなやさしい雰囲気のお店でした。静かでゆっくりできるので、安心できます。コーヒーの種類がたくさんあるのでコーヒーが好きな人におすすめですが、ケーキやジュースもあるので、コーヒーが飲めなくても行きやすいと思います。(春名咲耶)

落ち着いてリラックスできる空間でした。お店の人も話しやすい雰囲気です。さまざまな種類があるのでコーヒー好きな人はもちろんですが、読書が好きな人にもぴったりの場所だと思います。コーヒーの豆や焙煎する機械を見ることができると、おすすめの理由です。(小原夕依)



応援・協賛に  
ご協力いただいたみなさま。

虎猫思想では引き続き、趣旨にご賛同ご協賛いただける個人様・法人様を募集しております。ご連絡いただけましたら申込書をお届けします。どうぞよろしくお願いいたします。

SENSAI  
CHIKUSA KOGEN  
SHISO

ランチはもちろん、夜のお食事、仕出しもお気軽に!

 **大阪屋**

<問合せ先>  
お食事・仕出し 大阪屋 ☎0790-72-0070  
営業時間/昼11:00~14:00(L.O.13:00) 夜事前予約制  
定休日/毎週木曜 住所/兵庫県宍粟市一宮町安積1350-1

コヤスの杜庭園  
宍粟市山崎町上比地612



尼崎市 朴ゆりこさま

- 山崎町・福岡一志さま
- たまちゃん豆腐 平瀬豆腐店さま
- 波賀町・朴瞳さま
- むぎ&はな

  
**TORANEKOKEN**  
注文の多い喫茶店 虎猫軒  
宍粟市千種町七野359

 **保護猫応援プロジェクト**

**保護猫活動を応援できるポストカード(1枚100円(税込))販売スタート!**

多くの保護猫団体さんはボランティアで活動されています。

1匹の保護につき1カ月約4,000円のごはん・おやつ代がかかるそうです。

そこで、虎猫思想では保護猫団体さんを応援するためのプロジェクトを始めます。

1枚購入いただくごとに、30円分のおやつを保護猫団体へお届けします。

- <費用・内訳>1枚あたりの応援金額は次の通りです。
- 30円→保護猫団体さんへお渡しします。
  - 30円→虎猫思想の印刷費とさせていただきます。(実は虎猫思想一冊に約30円の印刷費がかかります)
  - 20円→販売手数料
  - 20円→ポストカード製作費

歴代の表紙猫や  
関連猫たちがポストカードに!



お預かりした寄付金は虎猫編集室が責任を持って信頼できる保護猫団体さまにお渡しし、寄付の内容については虎猫思想にてご報告いたします。(決して編集室の猫のおやつ費用ではありません!)

ご購入ご希望のみなさまは、ぜひ編集室へご連絡ください。趣旨にご賛同くださる店舗さんでも順次販売していく予定です。趣旨にご賛同いただける店舗さんのお問合せもお待ちしております。どうぞよろしくお願いいたします。

にゃ太郎編集長ニュース

**NYATARONEWS**

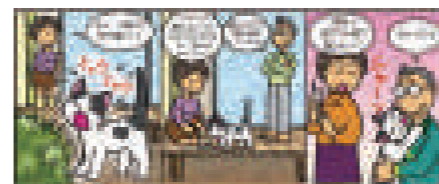
気になったできごとをピックアップ!

宍粟とその周辺の街ネタ  
情報をおまちしています。

**無責任に餌をあげるのは  
やめましょう**



これは  
ダメ!!



 **正しくは  
こちら**

自治体に引き取られる猫のうち約7割が子猫です。  
不妊去勢手術、排泄物や残飯などの清掃を行わず、かわいそうだからと  
無責任に餌だけを与える行為は、本当に猫にとって幸せなことでしょうか?



出典:環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/>)

それって本当に猫のため?

僕ら猫のメスは、生後半年ほどから妊娠出産ができます。その回数は1年に複数回だそうなんです。1回に4〜5匹生まれるので1年後には200匹に増える計算になります。メスだけの問題では決してありません。オスは発情期になるとメスを探して数キロ移動します。責任は飼い主にあります。

飼い主がいけない場合は、餌をあげてい  
る人の責任です。

人間と同じで、猫も生きています。生きていくものには命があります。ちなみに現在の法律(※)では、猫を捨てることや殺すことは犯罪です。(もちろん殴ったり蹴ったりも厳禁にや)餌をあげるなら、メスもオスも必ず

不妊去勢手術を。費用負担はもちろ  
ん、終生に向き合う覚悟を持つのが、  
命と関わる際の最低限のモラルです。  
本来であれば、きちんと飼うのが道理  
です。無責任にその場だけ可愛がるの  
は、やさしさとは違います。本当にか  
わいそうと思うなら、今後かわいそ  
うな猫を増やさないための行動を。

人と動物が共生するよりよい社会をめざして、  
「動物の愛護及び管理に関する法律」が定められています。

愛護動物をみだりに殺し、又は傷つけた者は、5年以下の懲役又は500万円以下の罰金が科せられます。  
また、愛護動物を虐待又は遺棄した者は、1年以下の懲役又は100万円以下の罰金が科せられます。



## 手塩にかけた庭園で、今日ものんびり。

今回の表紙、裏表紙に登場してくれたのは、山崎町「コヤスの杜庭園」のニャーちゃん(裏表紙)とナナちゃん(表紙)母娘。「コヤスの杜庭園」を手がける廣坂さんの事務所とご自宅、そして広い庭園で暮らしています。

この庭園の名前の由来であり主役ともいえるのが、廣坂さんが20年ほど前にタネから育て少しずつ増やしてきた「コヤスノキ」。庭園のあちこちに約250本が植えられていますが、実はこの木、国内では宍粟市を含む西播エリアから岡山県東南部にかけてだけ自生し、環境省の準絶滅危惧種に指定されている珍しい存在です。江戸時代の図鑑には描かれているもののその木の存在が分からず「幻の木」とされていたそうですが、1900年にたつの市の博物学者・大上宇市氏が発見。発表したのが、今をとさめく朝ドラの主人公・牧野富太郎博士でした。

春からの牧野博士人気もあって、現在、庭園は大賑わい。コヤスノキだけでなく多様な樹木や季節の草花が見られるという評判も広がり、大勢の人が足を運ぶように。「たくさんの人に見てもらえて幸せ」と笑顔でせっせと手入れをする園主を横目に、ニャーちゃんとナナちゃんは今日もマイペース。木陰でのんびり自分の世界に没頭する2ニャンは、どこか博士みたいです。



「コヤスの杜庭園」は、廣坂さんがこれまで時間をかけて作り上げてきた、住宅地にある私園です。来園する際はどうぞリスペクトとマナーをお忘れなく。



虎猫編集室  
Instagram